

令和 7 年度

第 1 回 進路説明会 資料

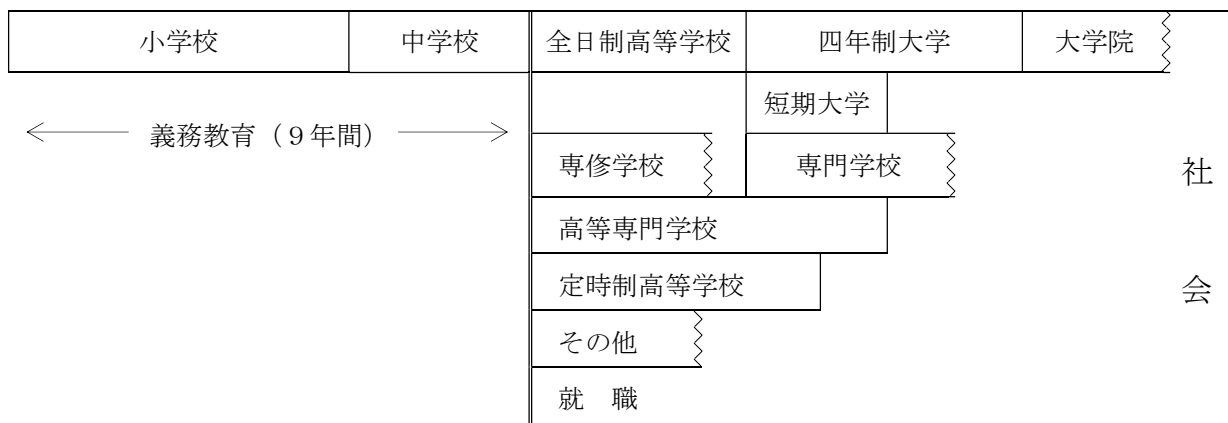
令和 7 年 5 月 1 0 日（土）

1	進路を考える	(1) 中学校卒業後の進路例	p. 1
		(2) 進路選択のポイント	p. 1
2	上級学校について	(1) 高等学校	p. 5
		(2) 高等専門学校	p. 7
		(3) 高等専修学校	p. 7
		(4) サポート校	p. 8
		(5) 企業内学校	p. 8
3	進路に関する日程		p. 8
4	入試の方法	(1) 都立高校の入試制度	p. 9
		(2) 私立高校の入試制度	p. 11
		(4) 学校推薦の内部基準	p. 13
		(5) その他の進路	p. 13
5	奨学金について		p. 14
6	年間計画		p. 16

1 進路を考える

進路とは、自分の将来進む道のことを表します。中学校卒業後の行き先を決めることだけが進路ではありません。さらに、その先を見据えながら考えていくことが大切です。環境に適応して生き抜く力、つまり「どこへ行っても自分でやっていける力」を身につけることも必要です。それが生きる力です。進路について考え、壁を乗り越えることで生きる力を培うことにもつながります。

(1) 中学校卒業後の進路例



(2) 進路選択のポイント

進路を考える上で、目先のことにこだわらず、その先のことを考えることが大切です。

- ・ 将来何になりたいか。
- ・ 適性、能力をよく考える。
- ・ 体力、健康面を考慮する。
- ・ 進路先の内容をよく調べる。
- ・ 過去の評判に惑わされない。
- ・ 家庭でよく話し合い、担任と相談する。
- ・ 周りの者の意見に流されない。

《高校を選ぶにあたって》

1 何のために高校へ行くのか

中学校を卒業するとほとんどの人が高校へ進学する現在では、高校へ行くのが当たり前と思っている人が多いかもしれませんが、改めて、このいちばん基本的なことを考えてみましょう。

〈目的の例〉

- ・ 高校卒業の資格を取る
- ・ 高校で資格を取る（建築科で建築士の資格を取る、商業科で簿記の資格を取る等）
- ・ 高校で学力や技能を身につける（大学進学のための学力や就職のための技能等）
- ・ 高校で新たなものを学ぶ
- ・ 高校で部活動に励む
- ・ 多くの友人を作る

2 どうやって選ぶのか

高校へ行く目的が明確になれば、選ぶ方法は見えてきます。高校の情報を集め、自分の学力を考慮し、保護者と相談して決めていけばよいのです。そのための手順は、

①自分の意志を固める

高校へ行く目的は一つだけではないことが多い。その場合は、自分の中で優先順位を考え、意志を固めていく。

（例：大学受験のために進学校に行きたいが、部活もしっかりやりたい。→①進学 ②部活）

②情報を集める

自分が希望（期待）する生活が送れる高校を探す。そして、その学校に入学するために必要な学力、費用、他の条件（通学時間・方法・特徴的な学習等）を知る。受験案内の本、インターネット、高校説明会などを有効に使う。

③保護者と相談する

自分が選んだ高校について、保護者とよく相談しましょう。率直に保護者と話ができる関係を自分から作る努力をしましょう。

④自分を成長させる

高校の求める生徒になれるように、自分を高め、成長させる意識をもつ。学力向上・体力向上・高校生活に適応できる力を養う等。

3 具体的な諸条件

① 学費

下の表のように、都立高校と私立高校の大きな違いはやはり経済面。以前は経済的な理由で私立高校の受験を選択肢に入れないケースもありましたが、最近では各種の奨学金や私学協会の行っている貸与制度を利用して就学することもかなり一般的になっています。また、就学支援金の支給（所得要件あり）により負担減になります。

		都立高校（全日制）A 高校の例	都内の私立高校の平均
受検（受験）料		2, 200 円	22, 626 円
初年度納入金	入学金（料）	5, 650 円	25 万 1, 048 円
	授業料	11 万 8, 800 円	46 万 0, 546 円
	その他 A	（積立金等） 7 万 5, 400 円	（施設費・積立金等） 27 万 2, 000 円
	その他 B	（教科書代・制服・カバン・体育着・教材費等） 11 万 1, 300 円	（教科書代・制服・カバン・体育着・教材費等） 17 万 2, 350 円
	計	31 万 3, 350 円	95 万 2, 630 円

※交通費や部活動でかかる費用は上記には含まれていません。

※東京都私立高等学校等授業料軽減助成金の制度があります。詳しくは「私立高等学校等授業料軽減助成金事業：https://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_jugyoryo.html」をご覧ください。

② 学力

仮に今、行きたい高校があったとしても、その高校で3年間しっかり生活し、学べる力を身につけることができるかどうかが問題です。『勉強だけが高校生活ではない』のはそのとおりですが、学力的についていくのが難しい高校で、充実した3年間を送ることは困難です。入学した後のためにも、とにかく今は実力をつけていくことです。そのためにはまず、学校での授業、家庭学習を大切にしましょう。その上で、定期テストや領域別テスト、会場テストなどから自分の実力（得点力）を判定し、それに見合った高校を選んでいくことが大切です。

③ 共学と別学

都立高校は基本的に共学です。私立高校には男女別学制をとっているところもありますが、最近では別学から共学へと転換する学校が増えています。共学か別学か、いろいろな面から考えて判断する必要があります。

④ 通学

3年間、毎日のことですから（部活動などで遅くなることも考えて）、あまり遠いところや電車の乗り換えが多く通学時間が長くかかるところは検討が必要です。遠すぎることや、高校の地域環境になじめないことも、充実した高校生活を送れなくなる要因の一つです。高校の中には若干ですが、寮を備えている学校もあります。自分で足を運んで、目で見ても肌で感じて確かめることが大切です。

⑤ 校風

志望校を選ぶにあたって、その高校の進学実績や卒業後の進路、部活動、行事の内容なども選択基準になりますが、校風をしっかりと把握しておくことも大切です。特に私立高校ではその特徴をきちんと理解しておく必要があります。（宗教等を理念の母体としている高校もあります）資料を読むだけでなく、見学や説明会などの際に直接自分で行き、判断するようにしましょう。

《 保護者の皆様へ 》

進路決定においては、生徒自身が自分の適性を判断して考えることが大切ですが、保護者のサポートも必要です。

1 計画を立てる

お子さんと保護者で一緒にスケジュールを立ててください。保護者の関わる点をはっきりとさせておくことが大切です。例えば、高校の入試説明会や見学会などに一緒に参加する、交通手段や地域環境を調べるなど、一緒に取り組むことで感想を共有でき、目標の方向性が定めやすくなります。高校の説明会も、計画的に参加することが必要です。

また、私立高校では、説明会や見学会の会場で行われる個別相談への参加が受験の条件になっている場合があります。説明会等にお出かけの際は、お子さんの成績（通知表の評定や領域別・会場テストの結果など）のわかるものを持参すると具体的な相談ができる場合もあります。

2 よく調べる

都立・私立とも入試制度は毎年変更があり、複雑で、すぐには理解できない場合もあります。なるべく関心をもって、多くの情報に接するように心がけてみてください。学校案内や受験資料を読むという作業では、助言やサポートという意味で、保護者の役割は大きいものがあります。

3 話し合う

進路決定に際しての話し合いの一つに、中学校での三者面談がありますが、その前にご家庭でじっくりと話し合っておいてください。

4 受験生（受検生）だからといって特別扱いはしない

特権意識による甘えが出たり、周囲の期待が重圧になったりと、どちらにしても本人にとって望ましいことではありません。通常の生活の中で、できる限りの努力をして目標に立ち向かわせるのが最良の方法です。また、状況に応じた言葉遣いや礼儀作法についても、機会をとらえてご家庭でもご指導いただきたいと思います。

5 通知や提出物

学校からの通知を家庭に持って帰り保護者に見せる、提出物を期限に遅れず提出するという習慣はできているでしょうか。進路に関わる大事な連絡・重要書類で取り返しのつかないミスが起こらないよう、ご家庭でも十分ご注意願います。

2 上級学校について

中学校卒業後の上級学校は、「高等学校」「高等専門学校（高専）」「専修学校」等があります。

(1) 高等学校

高等学校（高校）といっても様々な種類があります。次の A～D により分類することができます。

A：設置者による分類	B：授業時間帯（課程）による分類
C：履修形態による分類	D：学科による分類

A 設置者による分類

①国立高校

以前は国立、今は独立行政法人となっている旧国立大学教育学部附属として、設置されているものです。その性質上、学生の教育実習の場とすることを第一の使命としています。入試の難易度や合格基準が非常に高いのが特徴。また、難関大学への進学率もとても高くなっています。形態は「大学附属」ですが、その大学への入学に関する特典（優遇措置）等は基本的にはありません。

②公立高校

都道府県や市町村などの、地方自治体によって設置・運営されている学校です。東京都は、「都立高校」ということになります。都立高校の場合は、どこでも好きな学校を受検することができます。昨今、都民の多様な要望に応えるべく、様々な改革が行われ、ここ十数年の間に以下のような、新しいタイプの都立高校（特色ある教育活動を行う学校や多様なタイプの学校）が次々と設置されました。

★特色のある教育活動を行う学校

進学指導重点校（日比谷・西・戸山・青山など）、進学指導特別推進校（小山台、小松川・新宿・国際など）、進学指導推進校（江戸川、三田・竹早・北園・墨田川など）、進学指導研究校（向丘・広尾・紅葉川、科学技術など）、東京グローバル10（日比谷・深川・飛鳥など）、英語教育推進校（青山・領国・墨田川、上野など）、理数教育重点校（晴海総合・豊島など）、理数研究校（竹早・小松川・新宿など*令和3年度のみ）、チームメディカル（医学部や病院の体験等・戸山高校）、地域探究推進校（篠崎、第一商業など）、地域連携リーディング校（園芸、竹台など）、

★多様なタイプの学校・学科

チャレンジスクール（大江戸、六本木、小台橋、桐ヶ丘など）、エンカレッジスクール（足立東、中野工業など）、昼夜間定時制（一橋、浅草など）、単位制高校（飛鳥、墨田川など）、デュアルシステム科（六郷工科、葛西工業）、ビジネスコミュニケーション科（千早など）、国際科（国際）、産業科（橋など）、総合学科高校（晴海総合、葛飾総合など）、科学技術科（科学技術など）、情報科（新宿山吹）、家庭（赤羽北桜、忍岡など）、福祉（赤羽北桜など）

○チャレンジスクール○

都立の新しいタイプの高校の一つで、自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて各時間帯（部）を選んで入学する、三部制の定時制単位制総合学科高校です。基本は4年間ですが、努力次第では3年間で卒業することも可能です。

小・中学校での不登校や高校での中途退学を経験した生徒など、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする学校です。学力検査や調査書によらず、志願申告書や作文、面接で入試を行います。

○エンカレッジスクール○

都立の新しいタイプの高校の一つで、小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校です。エンカレッジ（encourage）とは、「励ます」、「力づける」を意味します。

1年次に30分授業の実施、午後は体験学習や選択授業が中心、2人担任制、学力検査がなく、調査書・面接・作文・実技検査などで入試を行う、キャリアガイダンスの授業で職業観を育てるなどの特色があります。

③私立高校

民間の学校法人・宗教法人が設置するもので、各校とも独自の校訓や教育方針をもち、それ

を実践しています。それぞれの個性や独自性を発揮して運営している点が、私立高校の大きな特徴と言えます。全国どこの高校でも受験は可能です。

B 授業時間帯（課程）による分類

①全日制

中学校と同様、朝登校して、日中の時間帯に授業を受ける高校。

②定時制

指定された時間帯で授業を受けます。以前は定時制と言えば夕方5時～夜9時頃が一般的でしたが、現在は都立高校の中にも「三部制」を敷く「昼夜間定時制」高校があります。

○昼夜間定時制高校○

都立の新しいタイプの高校の一つで、自分のライフスタイルや学習のペースに合わせて、午前、午後、夜間の3つの部の中から選んで入学できる定時制課程普通科（単位制）の高校です。1部は8:50～12:30、2部は午後1:10～4:45、3部は午後5:20～9:10でそれぞれ4時間の授業を行います。修業年限は4年間が基本ですが、昼夜間で他の部を併せて3年で卒業することも可能です（三修制）。

③通信制

基本的には学校に通わず、郵送された教材やオンラインで通信講座を利用し、レポートなどの添削指導を受けながら、自宅で学習する形態の高校です。スクーリング（通学）の日を設け、月2回程度登校し、面接指導を行う高校もあります。都立では、一橋、新宿山吹、砂川の3校があります。

C 履修形態による分類

「履修」……きめられた学科・課程などを習い修めること。

①学年制

中学校と同様、1年、2年、3年と進級する形態です。学習する教科・科目が学年ごとに定められており、その学習成果が認められると単位が与えられ、次の学年に進級する制度です。単位が足りないと進級できません。全日制は3年、定時制は4年を修了すると卒業が認められます。

②単位制

学年の区別がなく、3年間（または4年間）で所定の単位を修得する形態です。必修科目のほかに自分に適した教科・科目を選択し、その学習成果が認められて、入学から卒業までに決められた単位数を修得すれば卒業できる制度です。

D 学科による分類

①普通科

中学校とほぼ同じ教科を学習します。都立では、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の各教科を中心に学習します。各教科は、更にいくつかの科目に分かれています。学校が定めた教育内容に従い、定められた科目や自分で選択した科目を学習します。大学・短大・専門学校への進学や就職など、幅広い進路に対応します。

②普通科（コース制）

普通科の一部で、生徒の興味・関心や希望に応じられるよう、学習内容の重点化を図り、様々な選択科目を設けています。1年生から語学系、文科系、美術系、情報系のコースに分かれて学習します。都立では 深川高校（外国語コース）など6校。

③専門学科

工業、商業、農業、家庭、産業、福祉、芸能、体育、国際関係など専門的な分野の学習をします。普通科に比べて一般教科の授業は少なくなりますが、大学受験も可能です。

<都立高校の専門高校について>

- 専門高校とは、普通科目（国語や地理歴史など）のほかに、専門科目（農業や工業など）を、卒業までに25単位（全体の3分の1程度）以上学ぶ学校です。
- 専門高校は、農業・工業・商業など「仕事に関わる教育を行う学科」と体育・美術・音楽など「それ以外の専門学科」に分けられます。
- 卒業後の進路は、学んだことを生かしてそのまま就職する人も多くいますが、最近では、より専門性を高めるために4年制大学や短大、専門学校等に進学する人も増えています。

都立専門高校（職業学科）の例

種 類	
農 業	園芸デザイン・食品・園芸・動物 など
工 業	機械・電気・建築・設備工業・自動車・マシンクرافト・アートクرافト・インテリア・デザイン・グラフィックアーツ など
科学技術	科学技術
商 業 ビジネス	ビジネス
ビジネスコミュニケーション	ビジネスコミュニケーション
産 業	産業
家 庭	生活科学・保育・栄養、調理
福 祉	介護福祉
体 育	保健体育
国際関係	国際
芸 術	美術・舞台表現・音楽

④総合学科

普通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、自分の特性や将来の希望に応じて科目を選択し、学習をすすめる新しいタイプの高校です。自分の生き方や将来の進路を考える「産業社会と人間」という総合学科独自の科目を全員が学習し、科目選択に生かします。それぞれの高校に設置された系列をもとに時間割を自分で組み立てていくというのが大きな特徴です。

(2) 高等専門学校

一般に「高専」と呼ばれています。普通の高等学校と大きく違う点は、修業年限が5年間になるということです。最初の3年間は、高校とほぼ同様の教育内容で、残りの2年間は大学の一般教養とほぼ同等の講義内容となります。ですから、卒業時には短期大学卒業と同程度の資格が認められ、4年制大学への編入（3学年へ）も可能です。

東京都には都立産業技術高専、国立東京工業高専と私立のサレジオ工業高専の3校があります。

都立産業技術高等専門学校 (以前の航空高専と工業高専。工業に関する専門的な深い知識を学ぶ。)	ものづくり 工学科	品川キャンパス	機械システム工学コース、生産システムコース、電気電子工学コース、電子情報工学コース
		荒川キャンパス	情報通信工学コース、ロボット工学コース、航空宇宙工学コース、医療福祉工学コース

(3) 高等専修学校（専修学校高等課程）

中学校卒業者を対象とし、職業に直接結びつく知識、技術、資格を得るための学校が「高等専修学校」です。いわゆる「専門学校」と理解している人が多いですが、正確には、中学校を出た人が入るのが高等専修学校で、その上の高校卒業者が入るのを専門学校（専修学校専門課程）と呼びます。修業年限は1～3年で、特に3年課程では、通信制の高校と技能連携をしている学校で、高校卒業の資格が取れます。学費に関しては実習費等で一般の私立高校よりも負担が大きくなることがあります。専門分野への本人の適性を第一に考え、高校受験と同じようにできるだけ早い段階で担任と相談を。各種学校・専修学校の早いところでは秋から受付が始まります。

(4) サポート校

高等学校のようなシステムで授業を行います。全課程を修了しても高校卒業の資格はとれません。サポート校の大きな目的は、高校の通信制課程を受けている生徒に対して、その課程での高校卒業資格を取得するために学習面、生活面、精神面の援助をすることです。2つの学校に入学する形になるので、学費が多くかかります。

(5) 企業内学校

修業年限は3年で、その期間は企業の仕事をし、給与をもらいながら高校の勉強をして高卒資格を取得し、卒業後はその企業に就職することを前提としています。就職への道が続いているため、かなりの高倍率となり、学力が必要です。公共職業安定所を通して、受験などの申し込みを行います。(日野工業学園など)

3 進路に関する日程 (予定)

- 5月 進路希望調査① 進路説明会①
- 6月 実力テスト①
- 7月 進路希望調査② 三者面談①
- 9月 実力テスト②
- 10月 進路希望調査③ 進路説明会② 進路面談①
- 11月 進路希望調査④ 実力テスト③ スピーキングテスト
進路面談② (進路希望先の決定、手続き等の確認)
- 12月 入試相談 (12月15日以降)
- 1月 就職選考、推薦入試 (私立・都立)
- 2月 都立 推薦発表・手続き 一般入試 (私立・都立)・発表・手続き(第一次募集、分割前期)

	都立入試日程(昨年度)	都内私立入試日程(昨年度)
1月	12月20日～16日 出願情報入力 9日～16日 推薦出願受付	16日～ 推薦出願
	26日・27日 推薦入試	22日～ 推薦入試、発表
	1月31日 推薦入試合格発表	25日～ 一般出願
2月	12月20日～2月5日 出願情報入力 1月30日(木)～6日(水) 1次・分割前期受付	
	21日 1次・分割前期入試	10日(金)～ 一般入試・発表
3月	3日 1次・分割前期合格発表	
	6日 2次・分割後期出願	
	11日 2次・分割後期入試	
	14日 2次・分割後期発表	

4 入試の方法

都立と私立のそれぞれに推薦と一般があるので、高校入試は大きく分けて4通りということになります。日程の早い順に、私立推薦、都立推薦、私立一般、都立一般（一次・分割前期、分割後期及び二次募集…）ということになりますが、**私立推薦と都立は一度合格した場合はそこで進路が決定し、他校の受験はできません。**

(1) 都立高校の入試制度（昨年度入試を参考にしています）

I 推薦に基づく選抜について 【都立推薦】

※新型コロナウイルス感染症にかかわる対応のため、変更が生じる可能性があります。詳しくは東京都教育委員会ホームページ等でお知らせ予定です。

(1) 応募資格（次の①②③の条件を満たす生徒）

- ①令和7年12月31日現在、都内在住で、都内の中学校に在学していて、入学後も引き続き都内に在住し、令和8年3月に都内の中学校を卒業する見込みの生徒
- ②在学している中学校長の推薦を受けた生徒
- ③志願する都立高校を第一志望とする生徒

※一般入試も含めて、都外に転居の予定がある場合は、担任に連絡をお願いします。

※都外の公立校（国立を除く）を考えている場合も、担任に連絡をお願いします。

(2) 出願方法（必要書類は願書・調査書・推薦書・自己PRカード）←調査書・推薦書は学校が作成

①一般推薦

志願者は、**都立高校の1校1コースまたは1科に限り、出願することができる。**

志願する同一の都立高校内に2コースまたは同一の学科内に2科以上ある場合は、第2志望として他の1コースまたは1科に限り指定することができる。ただし、同一の都立高校内に普通科とコース、または農業科と家庭科がある場合は、それぞれ学科として扱うため、一方を第1志望とした場合、他方を第2志望に指定することはできない。

②特別推薦

志願者は、特別推薦を実施する都立高校の種目等のうちから1種目を指定し、1コースまたは1科に限り出願できる。志願変更はできない。ただし、同一日に実施している当該校の一般推薦に出願することはできる。この場合の出願方法は、上記①の一般推薦における出願方法による。

(3) 選考

①一般推薦

- ・選考は、調査書・集団討論・個人面接、小論文または作文（実技検査・その他）の各点数を総合した成績及び必要とする資料（自己PRカードを含む）で行われる。
- ・すべての高校で、調査書における各教科の観点別学習状況の評価（全27観点）または、評定（9教科）のどちらか一つを調査書点として点数化する（主にエンカレッジスクールは観点別）。また、各高校の特色に応じて、特定の観点や特定の教科の観点の配点を高くするなどして活用する。現在では、9割以上の学校が評定の方を点数化している。
- ・自己PRカードは、点数化しない。面接資料として使用したり、学校生活に対する意欲等を確認したりする資料になる。

※調査書点・面接点の重み付け、作文・小論文や実技の有無や重み付けについては、学校による。

②特別推薦

- ・一般推薦と同様。募集人数も少ない。さらに加えて以下のことがある。
- ・選考は、各高校があらかじめ定めた選考方法に基づき、面接のほか、実技検査を適宜組み合わせ、選考資料として用い、総合的に判断する。

〈推薦選考に対する都立高校側の基本的な考え方〉

- ・当該学校を志望する目的意識が明確であり、その理由が適切であること
- ・当該学校に対する適性及び興味・関心を有すること
- ・人物が優れていること
- ・学習成績が良好であること

II 学力検査に基づく選抜について

【第一次募集・分割前期募集】〔一般受検〕

- (1) **募集人員** 募集人員は、11月頃に配布予定の「令和8年度東京都立高等学校等募集案内」に記載される予定。
- (2) **応募資格**…推薦入試と同様。ただし校長の推薦は必要としない。
- (3) **出願方法**
都立高校を志願する者は、1校、1コースまたは1科に限り出願することができる。ただし、志望する同一の都立高校内に2コースまたは同一の学科内に2科以上ある場合（芸術に関する学科を除く）は、他のすべてのコースまたは科に志望順位をつけて出願することができる。
- (4) **志願者の出願手続き**
中学校長の確認を経て、出願期間中に志願する都立高校長に、出願に必要な書類を提出する。
全日制 入学願書、調査書、スピーキングテストスコアレポート、入学検査料2200円
定時制 入学願書、調査書、スピーキングテストスコアレポート、入学検査料 950円
(全日制、定時制ともに、検査料は出願サイト上での決済又は納付書納付場所で納付した領収書の画像を出願サイトにアップロードする)
※令和7年度は miraicompass を利用。個人用のメールアドレスが必要でした。
- (5) **志願変更**
願書提出後、1回に限り志願の変更をすることができる。
- (6) **選考**
選考は、調査書、学力検査の成績、面接の結果（小論文または作文、実技検査等を実施する高校にあつてはその結果を含む）及び点数化したスピーキングテスト結果を総合した成績で行う。
- ① **学力検査**
共通問題を使用して学力検査を実施する全ての高校で「マークシート方式」による入試を実施。記号による解答部分のみマーク方式で、作文、説明や作図などの出題は記述方式。

《全日制》

- ・5教科（国・数・英・社・理）を実施する。

※エンカレッジスクールと定時制（チャレンジスクールを含む）の一部は学力検査は行わない。

- ・国数英3教科に限り、自校作成問題で実施する学校もある。

進学指導重点校（日比谷 戸山 青山 西 八王子東 立川 国立）

進学重視型単位制高校（新宿 墨田川 国分寺）

- ・コース制の高校や科学技術高校、国際高校など、傾斜配点を実施する場合もある。

※傾斜配点とは、例えば、英語が2倍の場合には100点満点が200点満点となることをいう。

《定時制》

- ・5教科（国・数・英・社・理）の中から3教科以上を実施する。（各学校が定める）

②スピーキングテスト ※令和5年度より実施

○出題形式

英文を読み上げる/質問を聞いて応答する/意図を伝える/絵を見てストーリーを英語で話す/自分の意見を述べる

スピーキングテストの結果はA～Fの評価に分け点数化される。(満点は20点)

③調査書点(内申点)

《全日制》

学力検査を実施しない教科の評定の合計を2倍し、5教科(国・数・英・社・理)の評定を加えて点数化する。(満点は65点)

《定時制》

学力検査を実施しない教科の評定の合計を2倍し、他の評定を加えて点数化する。
(3教科の学力検査を実施する場合、満点は75点)

④学力検査得点と調査書点の比率

《全日制》 7 : 3

《定時制》 7 : 3 または 6 : 4 (各校が定める)

⑤男女別定員制の緩和 ※今後、男女合同定員による入試へ移行予定

【分割後期・第二次募集】

(分割募集)

一般選抜の募集人員をあらかじめ分割し、第一次募集期間における選抜(分割前期)と第二次募集期間における選抜(分割後期)の2回に分けて募集を行う学校がある。(足立新田、竹台、大山など)。

(第二次募集)

第一次募集で定員に満たない場合のみ実施される。

《学力検査》3教科(国・数・英)

《調査書点》3教科(国・数・英)の評定(1倍)と、学力検査を実施しない教科(社・理・音・美・体・技家)の評定(2倍)を加える。

《学力検査得点と調査書点の比率》

全日制課程 6 : 4

定時制課程 6 : 4 または 5 : 5 (各校が定める)

(2) 私立高校の入試制度

I 入試の形式

(1) 推薦入試

推薦の種類については、高校ごとに各種あるが、それぞれの高校ごとに「推薦基準」を設け、その「推薦基準に見合う生徒」を優先的に入学させる。

12月15日を開始日として、中学校・高校間の「入試相談」が行われ、推薦入試受験の可否、合格の可能性などを明らかにする学校が多い。

その高校を第一志望とし、合格したら必ず入学するという条件で、優先的に入学させる制度。学力試験は行わず、調査書・推薦書・作文・面接などで可否を決定する学校が多いが、適性検査(基礎学力試験)等で判断する学校もある。また、推薦基準はあくまでも出願可能な最低基準であり、当日の学科試験を中心に可否を判断する学校もある。

中学校長の推薦が得られ、高校ごとの「推薦基準」を満たしていることが条件となる。

「自己推薦」や「特待生推薦」を実施している学校もある。

《推薦基準の例》

コース	第一志望 [各教科評定の合計]
特別進学コース	5科20
進学Aコース	5科16
進学Gコース	5科15
スポーツコース	5科15

その他要件	9科に1の評定がないこと 人物に優れ、規律正しい学校生活を送ることができる者 欠席日数は3年次 15 日以内
加点項目	① 英検準2級以上(+2) ② 部長、委員長経験者(+1)

(2) 一般入試

主に学力検査、面接、調査書などで合否が決定される。実態として、当日の学力検査によって判断される傾向があるが、面接を重視する学校や中学校での出欠状況を細かく見る学校もある。

☆併願優遇☆

おもに都立高校を第1志望とし、第2志望として私立高校を受験する場合に利用する制度。

高校ごとの「基準」を満たし、中学校・高校間の「入試相談」を行うことにより、学力検査の得点に加点されるなどの優遇措置がとられる。

「延納」	コース	併願 [各教科評定の合計]	手続き：公立高校を第1志望とする場合に、所定の用紙等に
	特別進学コース	5科21	
	進学Aコース	5科17	
	進学Gコース	5科16	
	スポーツコース	実施しない	
	その他要件	第1志望と同じ	

記入し、出願時、または合格発表日に提出することにより、公立高校の合格発表日まで、入学金等の納付金を納めるのを待ってくれる（延納という）制度のある高校が多い。

延納は認めても一部の金額を納入しなければならない高校もある。

《併願優遇の基準の例》

- ・ 2学期の内申合計9科（5科、3科）で〇〇以上
- ・ 3年次または3年間の欠席（遅刻・早退）が××以下
- ・ 9科（5科、3科）の評定に1がないことなど、具体的な数字で示されることが多い。
- ・ 英検等の資格で加点になる学校も多い。

※推薦基準より厳しくなるのが一般的である。

※私立高校で「併願優遇」をとり、都立校の「推薦入試」受験をする場合、都立高校の合否に関わらず「願書の提出」を求める高校と、そうでない高校があるので確認をする必要がある。

(3) 学校推薦の内部基準

都立高校・私立高校ともに「推薦受験」が認められるには、次の①～③を満たす必要があります。

- ①その高校への入学を強く希望している
- ②その高校の基準を満たしている生徒である
- ③推薦されるに値する生徒である

推薦生徒に関する校内基準

○志望高校への目的意識が明確で、その理由が適切であること

○中学生としての態度・行動が良好な生徒であること
(生活指導上問題傾向がないこと)

○学習意欲・授業への参加態度が良好であること
(私立高校については、学習成績について具体的な基準があります)

○出席状況が良好であること
(正当な理由のない欠席、遅刻等がないこと)
(私立高校については、具体的な基準があります)

○進学先でも意欲的に学習・生活に取り組めること

都立高校にしても私立高校にしても、推薦には中学校校長による人物推薦の要素があります。また、どのような生徒を推薦したか、推薦されて進学した生徒がどのような高校生活を送るかは、対外的な信用に関わってきます。本人の意志も重要ですが、あくまで中学校在学中の学業及び毎日の生活態度から、学校長がふさわしいと判断された生徒が推薦生徒となります。日頃から周囲の人たちに理解してもらえるような行動・態度を心がけてください。

(5) その他の進路

I 高等専門学校（高専：東京都立産業技術高等専門学校）

※品川キャンパス、荒川キャンパス。学科によって分かれる。

都立高専は公立大学法人首都大学東京の所管となり、都立高校の受験とは全く別の扱いになります。しかし、受験制度そのものは変更がなく、都立高校と同様の流れで入試が行われます。一般の都立高校とは入試日程が別なので、両方の受験が可能です。

ただし、都立高専の方が入試・発表が早いので、高専に合格したら、都立の一般入試は受けることはできません。

国立高専は、単独で選抜を行います。私立高専は、他の私立校と同様の制度です。

II 国立の高校

独立行政法人となっているので、入試については個々に調べる必要があります。

(国立だからどの高校も同じ制度、というわけではありません)

III 東京都職業能力開発センター

職業に直接必要な技能を身につけることを目的とし、以前は「職業訓練校」、「職業技術専門校」と呼ばれていたところです。授業料は、若年就学支援科のあるところは無料で、そのほかは年間118,800円(昨年度)かかります。機械加工・塗装・福祉サービスなどの専門分野を1年間または2年間学びます。しっかりした技能をていねいに教え、就職の面倒もよいのが特徴です。面接、書類選考、学力検査(比較的簡単な国語と数学)、付加試験で合格者を決めます。中学生対象の選考は2月12・13・14日のいずれか一日に行われます。

IV 就職について

中学校では、就職希望の生徒に対しては、原則的にハローワーク（公共職業安定所）を通して就職先を斡旋します。ハローワークからの「求人票」（各事業所が雇いたい人を求める書類）をもとに、具体的な職業・就職先を相談・検討します。縁故関係による就職の場合でも、ハローワークを通しておけば、労働条件や賃金の面でトラブルが生じたときに、事業所に対して改善の指導をしてもらえることがあります。新規中卒者に対する求人数は減少しており、希望する職業に就くことは難しい状況です。学校にも求人一覧票が届くので、希望者は早めに相談してください。高校に落ちたから就職するという考えでは難しいのが現実です。選考の解禁日は来年の1月10日前後で、今年の12月には職場訪問や見学も開始されます。

手順	10月頃	求人票をもとに、職種や事業所を考える
	11月頃	希望の事業所を見学する
	12月頃	ハローワークで就職相談を受けて、応募先を決定する
	1月頃	就職試験を受ける（試験の内容は、面接と適性検査が多い）

5 奨学金について

（1）奨学金制度のいろいろ

- ① 返済が必要なものと必要のないもの
- ② 進学する者すべてが対象となるものと成績等の制約のあるもの
- ③ その高校に入学する者だけに与えられるもの → 高校独自の奨学金制度
- ④ 特殊な事情のある者だけを対象にしたもの → 交通遺児奨学金など
- ⑤ 中学校で候補者を募集するもの、または高校進学後に募集するもの

（2）出願の資格

- ① 来春に高等学校、高等専門学校に進学を希望する者
- ② 人物・学業ともに優れている者（中学校での成績が資料となる）
- ③ 経済的理由で就学が困難である者（保護者の所得の基準があるものもある）

（3）出願の手続き

- ・各奨学金の制度により、所定の書類を提出します。
- ・保護者の所得証明、中学校の推薦書、保証人などが必要な場合があります。
→ なるべく早く担任と相談してください。
- ・正式な決定、手続きは高等学校入学後となります。

（4）主な奨学金制度

東京都育英資金、北区奨学資金、あしなが育英会、交通遺児育英会など

昨年度のトラブル

- ・私立受験の申し込みで、パソコンからの登録を忘れていて、期日に間に合わなかった。
- ・学校から渡された親展の書類を誤って開けてしまった。
- ・私立高校の受験において、学校から渡された書類を郵送するのを忘れてしまった。
- ・当日、高熱が出て私立高校単願受験を受けることができなかった。

☆入試用語の解説☆

願 書…受験の許可を得るために提出する書面を願書という。氏名、住所、生年月日、保護者名等を記入し、写真を貼る。都立は中学校から生徒に配布するが、私立は受験生が高校へ行き、購入する。

出 願…願書を提出すること。高校が指定した出願期間に、受験する高校に行き、願書を提出しなければ、受験することはできない。ほとんどの高校は、受験料は事前に郵便局や銀行などの金融機関に振り込む。願書を提出すると受験票が渡される。近年はWeb 出願が増えている。

調査書…生徒の学習活動や学校生活について教員が記載する文書。いわゆる内申書。通常、1 2 月の通知表の成績（5段階評価）や出席・欠席日数、生徒会・委員会活動や係活動、学校行事など、学校生活に関すること、資格などについて担任が記入し、学校長の公印を押す。高等学校長宛てに親展扱いで提出する。

素内申…調査書（内申書）の各教科の評定の数字を総計した数値。おもに私立高校の推薦基準に用いられる。

換算内申

調査書（内申書）の各教科の評定を、都立高校独自の算出方法により換算した数値。おもに都立高校の一般入試で使われる。

入試相談

1 2 月に中学校の教員と私立高校の教員が推薦や併願優遇の希望者について相談する。

令和8年度 都立高等学校入学者選抜

都立入試では「入学する年度」を基準にして試験名が表現されます。今年の3年生が受ける試験は「令和7 8 度に入学する生徒を選抜する試験」ですので、「令和8年度 都立高等学校入学者選抜」と表現されます。

令和7年度 赤羽岩淵中学校 第3学年 キャリア教育の年間計画

学習の流れ		月	主な行事	進路の予定	進路先決定までの道のりと心構え等
基礎学力定着期	毎日の授業に集中 予習復習 家庭学習の習慣化 確実に覚えていく ＋ 1・2年の復習 (説明が載っているような問題集などを利用して基礎・苦手な所を確実にを行う) 定期考査をすべてやり直してみるのもよい。 ↓ 計画的・継続的	4	始業式4/7 入学式4/8 北区基礎基本調査4/13 保護者会4/12	二者面談 ・1年間を見通して、流れをつかむ。 ・自分なりの目標を立てる。 ・進路の年間計画について知る。	・部活動・行事・その他、今やるべきことに打ち込む ・服装、態度、言葉遣いを意識して生活する。 ・自分にあった学習計画を立てる。 ・提出物は遅れずに出す。
		5	修学旅行 5/18～5/20	・ 第1回進路説明会 5/10 ・自分の特性を知る 〈第1回進路希望調査〉 ・高校見学	・進路について、家庭での話し合い ↓ ある程度の希望を立てておく。 ・領域別診断テストに取り組み、自分の実力を確認してから夏休みの学習計画を立ててみるとよい。
		6	運動会6/7 1学期中間考査 6/24～26 9教科(技家もあり)	(中学校卒業後の進路先、高等学校について) ・領域別診断テスト(1回目) 6/27 ・推薦人物検討(1回目)	進路先の検討
		7	進路希望面談 (7月下旬または8月下旬) 通知表 4月～7月	〈第2回進路希望調査〉 三者面談 ・進路フェア	受験案内など本で見、ネットで調べる、教室や廊下の掲示物を見るなどしていくつか候補をあげる。
	毎日の予習復習 不得意教科は弱点を補強 得意教科は応用力をつける ↓ 問題集等をくりかえしやり、定着させる 実力アップ!	9	避難訓練9/1 1学期期末考査 9/18～19 5教科 連合体育大会9/26	・領域別診断テスト(2回目) 9/22	進路先を訪問する 学校説明会・体験入学・学校公開・文化祭などへ参加し、必ず自分で確かめる。 ① 交通機関の確認と所要時間の測定 ② 施設設備の見学 ③ 校内の雰囲気の観察 ④ 校風教育方針等 ※ 何校か見学して自分の希望に合った所を絞る。
		10	1学期終業式10/10 2学期始業式10/14 展示発表会 10/24 文化発表会 10/25	・ 第2回進路説明会 10/9 (都立・私立の動向と入試制度) 〈第3回進路希望調査〉	
		11	進路希望面談11/1 E S A T - J 2学期中間考査 11/12～14 9教科	進路希望面談11/4～7 具体的に学校名を挙げて検討 推薦希望の確認(推薦人物検討) ・領域別診断テスト(3回目) 11/17 〈第4回進路希望調査〉	※ 客観的に見た、自分の学力も知る。 進路希望先を決定する ※ 自分の特性、校風、学力、将来の進路等を考慮して、慎重に決める。 ※ <u>私立の場合は、個別相談を受ける。</u> 出願書類の作成 私立：高校で願書等を購入する。 都立：中学校で配布する。(特別な場合を除く)
		12	進路用写真撮影 三者面談 受験用評定(4月～12月)	三者面談12/1～5 受験希望校の決定 ※誓約書、調査書作成願提出 ・私立高校との入試相談(教員) ・就職希望者書類提出 ・面接・集団討論・作文指導 ※私立高校との入試相談後の志望校の変更はできません。	・推薦希望者は面接、作文の練習開始
実践力養成期間 総仕上げ	傾向学習 (過去の入試問題を解く等) 時間内で解く練習 毎日の予習復習 重要事項の整理 受験準備	冬休み			
		1	書き初め展	・東京都技術専門学校(出願・選考・発表) ・私立高校推薦出願・選考・発表 ・都立高校推薦出願・選考・発表 (選考日1/26・27) ・私立高校一般、併願出願	・生活リズムを整える。(朝型に) ・ 出願書類、手続き等の期日の確認 ※募集要項を良く読み、確認する。
		2	学年末考査2/25～26 5教科 校外学習3/6	・都立高校一般出願 ・国立高校学力検査 ・高専学力検査 ・都内私立入試・発表 ・都立高校(前期)学力検査(2/21)	入試スタート ・健康管理に留意する。 進路先の決定
進路準備	学習の総まとめ 進路先への心構え確立	3	通知表(学年末) 卒業式3/19	・都立高校発表・手続き(3/2) ・都立2次(後期)、私立2次 出願・検査・発表・手続き ・都立定時制2次 出願・検査・発表	・中学校生活の総仕上げ (最後の行事への積極的参加) ※ 最上級生として下級生の進路の手本となるように、残された中学校生活を有意義に過ごす。 ・進路先に進んで困らないように、まとめの勉強をしっかりとる。

【評定】 受験用評定1 7月 18日 ※ 4月～7月18日までの評価
 受験用評定2 12月25日 ※ 4月～12月までの評価 ※調査書に載せる成績(内申)は、4月～12月までの総合成績です。

Memo

Memo